

演題名：

急性期血行再建療法における arterial spin labeling を用いた脳血流所見による予後の検討

Analysis of prognosis based on the cerebral blood flow findings using arterial spin labeling in endovascular revascularization therapy

演者：

木村浩晃、赤路和則、片野雄大、志藤里香、望月洋一、谷崎義生、美原盤

所属：

美原記念病院 神経内科

Department of Neurology, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

美原記念病院 脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

美原記念病院 脳卒中部門

The Cerebrovascular Division, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

【目的】 Arterial spin labeling (ASL) により MR 拡散強調画像などの撮影に続けて脳血流評価を低侵襲に行うことができる。前方循環系の急性再開通療法を行った症例で術前に ASL を撮影し予後との関連を検討した。

【方法】 2010 年 10 月から 2015 年 3 月に治療を行った前方循環系の急性期脳主幹動脈閉塞症 34 例を対象にした。ASPECTS-DWI と同様の方法で” ASPECTS-ASL” を規定し、DWI-ASL score を算出した ($[DWI-ASL \text{ score}] = [ASPECTS-DWI] - [ASPECTS-ASL]$)。DWI-ASL score と機能予後 (3 か月後 mRS) との関係を検討した。血行再建療法による良好な再開通 (TICI 2b、3) の有無についてさらに検討した。

【成績】 対象症例 34 例の内訳は、男性 25 例、女性 9 例、年齢は平均 70.5 歳だった。来院時 NIHSS は 5-35 (中央値 19) だった。DWI-ASL score が 6 以上、6 未満の場合、3 か月後 mRS 0-2 の割合はそれぞれ、46.2%、19.0%であり、6 以上であるとき機能予後良好の割合が増加する傾向がみられた ($p=0.097$)。良好な再開通が得られた例では、DWI-ASL score が 6 以上、6 未満の場合、3 か月後 mRS 0-2 の割合はそれぞれ、75.0%、25.0%であり、6 以上であるとき機能予後良好の割合が有意に増加した ($p=0.039$)。

【結論】 DWI-ASL score が 6 以上であるとき、急性再開通療法により良好な再開通が得られれば、機能予後良好につながる。